

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	神学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. カリキュラム・ポリシーに沿ったシラバスが作成されているか検証する制度を構築する。	→既存のカリキュラム研究委員会（研究科）による検証および研究科委員会に対する報告書の作成（2013年度までに）。	C
2. 上記目標を実現するために、ファカルティ・デベロップメント（FD）活動を充実させる。	→研究科独自の課題に対応するFD研修会の開催（年2回）。	C
3. 学生による授業評価をファカルティ・デベロップメント（FD）活動にフィードバックさせる。	→学生による授業評価のFD研修会への反映。	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

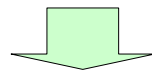
★ 小項目6.3.1	(現状説明) 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導のために、前期課程においては修士論文提出にあたって以下のプロセスを踏まえることとしている。 第一学年度： 履修登録 [4月初旬] / 「研究計画書」（2カ年）の提出 [4月末まで] / 「年次報告書」（2,000字程度）を提出 [2月中旬]。 第二学年度： 履修登録 [4月初旬] / 「修士論文題目届」の提出 [5月末まで] / 修士論文中間発表 [10月中旬] / 「修士論文」および要旨の提出 [1月中旬]（/口述試験 [2月中旬]）。 また、後期課程においては博士論文提出にあたって以下のプロセスを踏まえることとしている。
	第一学年度： 履修登録 [4月初旬] / 「研究計画書」（3カ年）の提出 [4月末まで] / 学会での発表・論文作成（公開可能な単著論文で、12,000-15,000字程度） [年度中] / 「年次報告書」（2,000字程度）を提出 [2月中旬] 第二学年度： 履修登録 [4月初旬] / 「年次研究計画書」の提出 [4月末まで] / 学会での発表・論文作成（公開可能な単著論文で、12,000-15,000字程度） [年度中] / 「年次報告書」（2,000字程度）を提出 [2月中旬] 第三学年度： 履修登録 [4月初旬] / 「年次研究計画書」の提出 [4月末まで] / 博士学位申請のための予備審査申請 [10月末まで] / 「博士学位申請論文」（120,000字-200,000字程度）および要旨等の提出 [11月末まで]（/公開口頭試問 [1月-2月]）。

☆ 小項目6.3.2	(現状説明) 現行、神学研究科のシラバスは次の項目にしたがって作成している。「授業の目的」「授業内容および授業方法」「テキスト」「成績評価方法および基準」「学生による授業評価の方法」「キーワード」「その他」このうち、次の項目は必須入力となっている。「授業の目的」「授業内容および授業方法」「成績評価方法および基準」また、すべてのシラバスはWEBで一般にも公開されている。
☆ 小項目6.3.3	(現状説明) 現行、神学研究科のシラバスにおいて、「成績評価方法および基準」は必須の記載項目となっている。結果、すべての授業科目においてそれが明記されている。
☆ 小項目6.3.4	(現状説明) 現行、教育の成果を検証し、教育課程や教育内容・方法の改善に結びつける仕組みはない。しかしながら、学生による授業評価を利用して研究科独自の課題を抽出し、それらに対応するFD研修会を開催することによって、仕組みづくりを検討しようとしている段階である。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



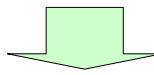
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○「現状説明」には「適切に実施されているかどうか」の自己評価が含まれていません。制度の説明だけでなく、客観的な判断の記述が望まれます。

【学内委員】

- 改善に結びつける仕組みは大変難しいとは思いますが、是非検討してください。
- 大学院の授業評価は少人数のため難しい点がありますが、成果を測る方法としてその利用を考えてください。
- かかげられた目標の実現に期待します。
- 現状説明の小項目6.3.1および6.3.3において、その適切性についての記述が望まれます。また、小項目6.3.2ではシラバスと授業の整合性についての記述が望まれます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

小項目6.3.1の現状説明にある学位取得プロセスについて、博士課程後期課程では概ねこのプロセスにしたがって毎年(2007～2009年度)1名の課程博士を輩出している。また、課程博士取得を見込んだ奨励研究員(学内制度)には例年1～2名の推薦を継続して行っている(うち、2007年度・1名、2009年度・1名が採用)。

- ★ なお、研究科独自の制度である「学会発表補助」の申請・採用状況からも、上記学位取得プロセスが有効に機能しているとみてとれる。2007年度・1名(計27,250円)、2008年度・4名(計148,000円)、2009年度・3名(計125,000円)
また、年1回発行される紀要『神学研究』へ寄稿する学生も例年1～3名程度ある。さらには月例研究会「神学研究会」での発題や参加も序々に増加傾向にある(2009年度参加者数平均5.3名[学部生を含む])。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.3.0.S1	大学院生の論文件数(査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
6.3.0.S2	履修者数規模別の授業科目数(少人数・中人数・大人数)
6.3.0.S3	少人数授業の授業形態の調査
6.3.0.S4	規模別講義室・演習室使用状況
6.3.0.S5	マルチメディア教室の稼働率
6.3.0.S6	遠隔授業を活用した授業の比率
6.3.0.S7	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.3.0.S8	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.3.0.S9	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.3.0.S10	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.3.0.S11	各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況
6.3.0.S12	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70～75点)の比率
6.3.0.S13	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.3.0.S14	履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
6.3.0.S15	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S16	オープン授業(授業公開)の全授業における割合
6.3.0.S17	学生の授業評価の実施率(全学、学部別)
6.3.0.S18	学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S19	在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
6.3.0.S20	在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
6.3.0.S21	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(キリスト教関連科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S22	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(語学)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S23	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(一般教養的な授業)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S24	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(専門科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S25	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(ゼミ)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率

<個別的な指標>
